

「博士課程共同指導報告書」

Aalborg 大学政治学部・研究科博士課程2年 (森田麻記子)

まず初めに、落合恵美子教授並びに今回の京都大学での滞在を実現するためにお力を貸してくださった全ての方に御礼申し上げます。以下、上記指定の報告内容に関して私の経験を報告する。

①学習成果(今回の派遣に参加する前とした後とで、留学、大学での学習、国際理解への意欲に関して、自分にどのような変化が起きたか、今回の派遣に参加して、次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったかなど)

今回文学研究科に滞在させていただいたのはたった四ヶ月間という比較的短い期間であった。だが、その短期間の中で様々な機会を与えて頂き、異なる専門分野の方々と多様な議論を持つことができた。特に、現在私はデンマークのオールボー大学に籍を置いているため、日ごろからヨーロッパを中心とした国々の方と出会うことが多い。また政治学部にも所属しているため、学部内での議論はもちろん政治学をベースとしたものである。京都大学滞在時は、文学研究科及びアジア研究教育ユニット、二つの研究、教育機関でご研究されている方々と日常的に作業空間を共有することで、デンマーク滞在時には触れることのなかった、哲学や歴史学などの研究領域、もしくは地域(とくにアジア)に関する知識、情報を得る機会に恵まれた。異なる研究領域の方と議論することで自らが自明視している事柄を認識でき、アプローチを考え直す機会にもなった。

また、落合教授のゼミを含め、文学研究科での歴史の授業や海外大学から招聘された研究者による特別講演、様々な国、地域から参加者が集った次世代ワークショップなど、新たな学びの場、そして更に自らの研究成果を発表しフィードバックをもらえる場に参加することができた。これらの経験を通して、デンマークではなかなか知ることのできない日本や日本を含めたアジアの学界における最新の研究動向に触れることができたのは大きな収穫の一つである。

②海外での経験

私は2012年よりデンマーク、オールボー大学、比較福祉研究センターに在籍しているため、今回の京都大学滞在が「海外」での経験という逆留学のような形になった。日本人としてデンマークで博士後期課程に在籍している経験ならば個人的に書きたいことはたくさんあるが、おそらくこの報告書の趣旨に沿わないだろうと思うので割愛する。

③プログラム内容

共同研究者としての短期滞在プログラムは非常に自由度が高く、上述のとおり興味のある授業、特別講演やワークショップへ出席することができる。博士課程で行っている研究のため、日本滞在中はインタビュー調査を実施していたので、このような自由に参加できる形態は調査の遂行と両立しやすかった。

④進路への影響

博士課程修了後の進路はまだ未定であるが、国内トップレベルの研究、教育機関である京都大学で研究者の方々の日々を垣間見れたことは、今後を考える上で重要な経験になった。また、オフィスでポストドクの方々に具体的な就職活動の様子などを伺ったことでどのような準備が必要かなどの情報交換ができたことは非常に有益であった。